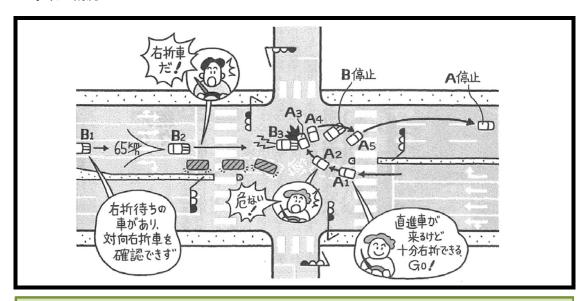
■事故の概況



事故類型:右折直進 発生日時:午後5時ごろ

当事者A:普通乗用車 50歳代 女性

当事者B:普通乗用車

■ 事故の概要

Aは、帰宅のため片側3車線の幹線道路を走行していました。まもなく自宅という所で、信号機のある交差点に差しかかりました。交差点は直前から右折レーンが設置されており、対向車線には右折車がありました。Aは、ゆっくりと速度を落としながら交差点に進入しましたが、3車線の幹線道路は交通量が多く、信号が変わるまで右折できる状況ではありませんでした。その時、対向の直進車群が一瞬途切れ、約80m先に直進してくるB車を発見しましたが、他に直進してくる車両がなかったため、Aはこの距離なら十分右折できると判断し、右折レーンの停止線で停止することなくそのまま右折を開始しました。

一方、Bは、交差点を直進しようと3車線道路の中央車線を時速約65kmで進行していました。交差点内には右折のため停止している車両があり、対向右折レーンから交差点内に入ってくるA車を発見できませんでした。B車が交差点内に差しかかったとき、A車が交差点を右折しはじめたためBは急ブレーキをかけましたが止まり切れず、Aと衝突しました。

■ 事故から学ぶ

右折する際、対向の直進車が切れたからといって安易に右折できると判断するのは大変危険です。交差点付近では、対向車の距離や速度の見誤りによる衝突事故が多く発生しています。

また、車両の大小による距離感の違いもあり、トラックと二輪車を比較するとよくわかります。同じ距離でトラックと二輪車を見ると、トラックは近くに、二輪車は遠くに感じます。これは、同じ距離であっても車体の大きいトラックは近くに感じ、車体の小さい二輪車は遠くに感じるという錯覚によるものです。したがって、交差点で右折する際は、道路環境等に留意しながら、十分な安全確認を行うことが極めて重要です。この場所は、幹線道路の交差点で交通量も多く、車両の走行速度が高いことを考えれば、もう少し慎重に右折の判断をすべきでした。